が今後取るべき態度に就て
ーー「大阪よりの形勢刻々悪化
があつたので昨十五日午後
部が破壊されんとする形勢
を報じて来たので本部の
勝手を構はず鈴木会長の
受けて総選挙後に次第に
若し事態の如何に依りては
労働総同盟及友愛会は全力を
して戦ふ決心であると云々

罷工団へ百円

罷工団に対し十六日北海道
式時より百円を寄附した

…迫口に於てあつて同会幹部全部を撃滅せんとするかの如き形勢があるので西尾主事は聯合会の名を以て形勢刻々急なる旨を本部に飛電したので本部では十五日緊急幹部会を開き取敢ず松岡理事を特派することに決し松岡理事は十六日午前八時梅田駅着列車で来阪直ちに聯合会事務所に到り機上会議室に入るや聯合会幹部は直に秘密会を開いたが之に先立ち午前八時西尾主事は[illegible]氏は総本部に出て総務部長を訪

…たる群衆約三百名は北浜…町部に引き上げたり

判明せる負傷者

眼球を飛出した男もある

此の騒擾の結果負傷者の午後七時迄に判明せるは重傷者十三名にして尼崎セメント会社職工小倉政吉は右眼を鎚か棒られて眼球が飛び出し大阪聯友会の前田末雄は頭部の為め衣類はズタズタに引裂かれ乱暴にされて乱打された為め助けを求めて号泣するなどの惨状あり其他氏名の判明せるは

▲西区幸通加島町大阪製鎖会社職工三木市太郎(二二) ▲府下西成郡北島村字野里安治川発電所現業員大井辰吉(三二) ▲福島警察署佐久間嘉太郎(四〇) ▲元安治川発電所松田安太郎 ▲元春日出発電所福本平八 ▲友愛会山村栄

で右の内松田安太郎は拳銃を持つてゐた為め衝突の際警察隊と揉み合ひの中に負傷し又小倉政吉も負傷し何れも発電所内に急設された仮治療所内に於て手当を受け医師が[illegible]せり

御成婚御奉告に

梨本宮規子女王殿下 奈良御一泊

賀陽宮恒憲王殿下には妃殿下御同列にて神武天皇御陵に御成婚御奉告の儀を行はせらるべく十七日御来県の御日程であつたが御予定更に十六日午後三時五十七分奈良御着大田川知事以下の御出迎へを受けさせられ県参事会の自動車にて奈良ホテルに御立寄あり御休憩後奈良公園の新緑を御観賞あらせられ同日一泊十七日午前八時御出門[illegible]御陵に御参拝の儀を行はせ給ひ次で橿原神宮御参拝の上[illegible]宇山村御陵に伏見宮文秀女王殿下を御訪問遊ばされ直ちに奈良市に引返させられ午後四時二分奈良駅発列車で御帰京の御予定である(奈良電話)

宮崎社長と会見

佐藤代表等が……

争議破綻後の跡始末の為め

十五日午後四時三十分元聯合会幹部の[illegible]佐藤栄太郎氏外四名は大阪本社に宮崎社長を訪ひ社長室に於て木村庶務、野口支配人、林庶務課長、大西調査課長立会の上で会見せるが

佐藤氏は先づ口を開きて「今回の罷業に際し全職工何名を解雇せるや」と切り出せば宮崎社長は「目下の処では約三百八十名程である」と答へた、すると佐藤氏は「此の三百八十名を全部無条件で復職せしめられよ」と要求したのに対し社長は「絶対に出来ぬ、何んとならば此の内には百名程の不良分子があるので、残りの二百八十名に対しては場合に依つては復職させても可い

目下ストライキに用ひて

顕著の効果あるボーカー戦

大阪本社の方針としては此の際従来の意味で五百名を解雇したいのだが新聞の注意もあるしなれば或は二百八十名から説え

騒擾の巷と化す

二百名の警官隊と争闘

叫喚の渦を巻いて物凄じく

重軽傷者数十名

時に午後六時三十分過ぎ斯くて遂に聯合会の一隊の檄鋭なる安治川発電所襲撃を以て目的場所と一隊は「ワーツ」と関の声を上げ石を雨霰の如くに投付けつゝ逃込の警官を上げつゝ門前に於て発電所門前へ突到した、現下は警察官立ち手に手に武器を振りかざし所構はず前を固めて居た警官隊の制止も聞かばこそ、彼等は十四日夜の暗黒社会の大騒擾を繰返す以上に労働団の一隊は何れも叫喚し所内に乱入し込まんとしせば警官隊約二百名は死力を尽して阻止せんとし大混乱の人波数十名も此の渦中に飛び入つて忽ち修羅の巷となり大乱闘の光景凄惨たるものあり労働者は石礫で死力を尽して戦ひ合ひ、警官隊も双方の眼前に突入し突入したるが遂に労働者側にも警官隊にも約三四十名の負傷者を出し中には五六名の重傷者を出し又は瀕死の者もあり現場は実に名状すべからざる混乱を呈したが約小一時間の争闘をつゞけ警官隊は遂に昨年の米騒動の際の警戒網に鑑みて以上此騒擾団を挟撃して漸く同六時三十分頃解散を命じたり

西尾主事も検束

乱闘中の安治川発電所正門前に於て

午後七時頃放還さる

此の乱闘の際に検束されたる者十四五名を下らず巡査も殆ど狂気の如くに暴行者を物色せしが友愛会大阪支部主事西尾末広氏は正門前にて巡査の手に引致されたるが斯く同じく群集の一部は友愛会本部に引揚げ西尾氏の身柄に就て種々協議せしが午後七時頃一応取調べの上放還されたり

乱闘から留置場へ

大木監察官は自動車上で

熱罵の組に乱闘留置所の道説

『労働歌』を高唱して引揚ぐ

動揺めく群衆の喧噪の中に大木監察官で解散する筈であつたに監察官は自動車に突立つて「崩」を抑え此の場に至つたのは遺憾と議長の言に依ると諸君は反だ遺憾とする處である西尾君は

聯絡し更に午後公園で勢揃ひをして示威運動に移つた

旗を先頭の過激な文句を書き列ねた旗を五月の風に吹き流しつゝ総員凡そ一千余に及ぶ一大示威行列は悠然[illegible]に於て勇ましい旗を押し立て[illegible]てその数一千余名が武装して街々を練り特に我社前間にも来りて[illegible]

彼のたのが天満の浜本社前をに進んだ時は更に右折して安治川発電所へ殺到しようとした、斯くて見たる西区及警官大阪出張其の他の警官押出して極力之れが阻止に努めたのを聞き入れず猛り立つた聯合会の一隊は一斉に発電所を襲撃すべく口々に言うトンツキ喊声を上げつゝ口に叫ぶ安治川発電所へと突進した